

別海のおたから 紹介

別海町には国・道・町指定の文化財や別海町歴史文化遺産、日本遺産『鮭の聖地』の物語」の構成文化財などがあります。また、まだ指定等はされていませんが、

「地域の歴史を語るもの」「次世代へ守り伝えたい景観」

なども数多くあり、これら全てが **別海のおたから** です。

下に代表的なものを挙げていますが、「そういえば、家の近くにこんなものがあったな」、「〇年前まで、あの行事やっていたけど…」など、気づいたことがあればアンケートにご記入ください！



あれも、これも、別海のおたから！

国・道・町指定の文化財



きゅうおくゆうすえきていしよ
旧奥行臼駅通所

(国指定記念物)

(日本遺産構成文化財)

交通不便の地に駅舎と人馬を備え、宿泊や運送の便を図るために設置された施設で、その景観を良く残していることから史跡に指定された。



おくゆうすえきてい
奥行臼駅通所

(北海道指定有形文化財)

駅舎1棟、馬屋2棟、倉庫1棟が現存。駅舎は木造寄棟造2階建て建物であり、駅通最盛期の大正時代の趣を残すとして、北海道の指定になっている。



にしべつしつげん ぐんらくち
西別湿原ヤチカンバ群落地

(北海道指定記念物)

ヤチカンバはカバノキ属ヒメカンバ節に属する。氷河期の遺存種と考えられ、別海町と十勝の更別村にだけ見られ、ともに北海道指定の天然記念物になっている。



にしべつかいき まつ
西別開基の松

(町指定記念物)

昭和9(1934)年に役場庁舎が現在の別海市街に移転し、新庁舎が完成した事を記念し植えられた。数少ない赤松の老木。



のつけ ちしまざくら
野付の千島桜

(町指定記念物)

明治39(1906)年頃、当時の子どもたちが野付半島から小舟で3本を運搬して現在の野付小学校敷地内に移植したと伝わる。



しきくじょう さくら
試作場の桜

(町指定記念物)

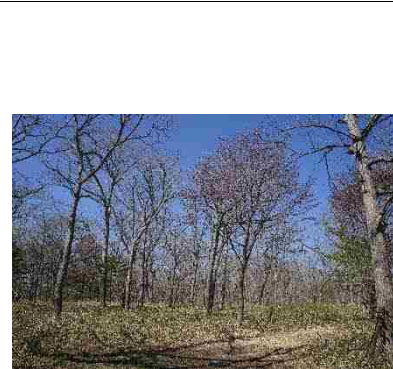
明治43(1910)年、根室地区農事試作場の開設を記念して植樹されたオオヤマザクラ。樹齢100年以上。



おおなら
オクユキウスの大櫓

(町指定記念物)

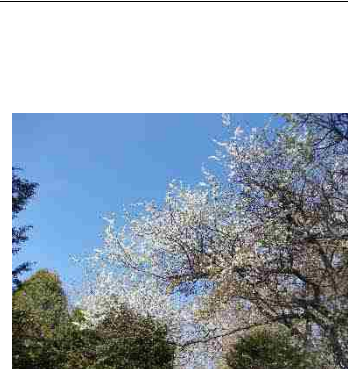
推定樹齢500年と言われるミズナラで、奥行臼駅通所の取扱人山崎藤次郎が明治36(1903)年に移住して以来、大切に保護・保存されてきた老木。



ふうれん ならばやし
風連の櫓林

(町指定記念物)

大正6(1917)年に齊藤栄次郎氏が伐採をせずに保存。数少ない町の木、櫓の原生林の群集として大変貴重。樹齢350年。



かいこんきねん
開墾記念のスモモ

(町指定記念物)

大正7(1918)年頃に上風連の開墾を記念し、八雲方面より5本持参し植林したもの。現在は1本のみ現存。

町指定の文化財



おくくさうすえき
奥行白駅

(町指定有形文化財)

(日本遺産構成文化財)

昭和 8 (1933) 年 12 月に標津線
(厚床—西別間) の営業開始と
同時に奥行白駅が開設。



ろうやま まつ
蠟山の松

(町指定記念物)

蠟山吉太郎氏が色丹島より 3
本のグイマツを持ち帰り、2 本
を野付神社に寄与。残り 1 本を
自宅の庭に植えた。樹齢 130 年



ほんべつかいいつぽんまつ
本別海一本松

(町指定記念物)

明治 7 (1874) 年、東北各地から
漁夫百十数人を募集し、西別川
で漁労に従事させた番屋の横
に植生していたもの。



やくばししょ かしわ
役場支所の 柏

(町指定記念物)

西の拠点として別海市街に次
ぐ第 2 の市街地にまで発展し
た西春別駅前に残る、樹齢 350
年の柏の木。



きゅうべつかいそんえいきどうふうれんせん
旧 別海村宮軌道風連線

(町指定有形文化財)

(日本遺産構成文化財)

昭和 38 (1963) 年に一部開通、翌
年に役場上風連出張所まで延
長。地域輸送に大きく貢献。



ひろのかいたくろっ き かしわ
広野開拓六気の 柏

(町指定記念物)

昭和 4 (1929) 年頃に入植者の
移住が始まった広野地区に残
る 6 本の柏の木。樹齢は推定
300 年とされる。



かみにししゅんべつしょうがっこう かしわ
上西春別小学校の 柏

(町指定記念物)

昭和 11 (1936) 年の標津線開通
以来、西の拠点として発展した
西春別駅前に残る、2 本の柏の
大木。



か が け もんじょ
加賀家文書

(町指定有形文化財)

(日本遺産構成文化財)

江戸時代末期から明治初期に
かけて、4 代にわたり根室地方
の場所請負人のもと、通辞 (アイヌ語通訳) として働いた加賀
一族の残した古文書。



のつけはんとうおき かせきぐん
野付半島沖マンモスゾウ化石群

(町指定記念物)

3 標本 3 個体のマンモスゾウ化
石。発見地としては、野付半島
沖が国内最大規模。現在は別海
町郷土資料館にて展示。

町指定の文化財



ずしいりみなみやうすべつぼとうかんぜおんぼさつざぞう
厨子入南矢白別馬頭観世音菩薩坐像
(町指定有形文化財)
(別海町歴史文化遺産)

国後島泊村古丹消の観音堂に安置されていた観音菩薩像 33 体のうちの 1 体。地元の習俗文化との結びつきも高く評価される。



きゅうかしわのじんじょうしょうがっこうほうあんてん
旧柏野尋常小学校奉安殿
(町指定有形文化財)
(別海町歴史文化遺産)

昭和 12(1937)年に設置。奉安殿とは明治以降、学校に下賜された天皇・皇后の写真や教育勅語謄本を納めていた建物のこと。町内で唯一、現存している。

指定文化財と別海町歴史文化遺産の詳しい情報は、以下のQRコードから、別海町のホームページにアクセスして調べることができます。



別海町歴史文化遺産



みなみやうすべつぼとうかんぜおんぞう かんのだう
南矢白別馬頭観世音像と観音堂
(有形文化財)

馬頭観世音像は、町指定の有形文化財「厨子入南矢白別馬頭観世音菩薩坐像」と同じ。観音堂は平成 21 年度に修復され、毎年 6 月 15 日に馬頭観世音祭が催される。祭りの日だけ観世音像が一般公開される。



きゅうかいたくしべつかいかんづめしよ
旧開拓使別海缶詰所
(有形文化財)

(日本遺産構成文化財)
開拓使が明治 11(1878)年に設置した缶詰所の一部で、町内に残る最古の木造建造物。開拓使が設置した缶詰所の中で唯一、現存する貴重な産業遺産。現在は別海漁協の倉庫として使用。



きゅうにしべつじんじやほこら
旧西別神社 祠
(有形文化財)

昭和 3(1928)年に現在の別海神社の位置に建立された西別神社の祠。建築様式は流造りで、建材にはナラを使用。別海村の中心地「西別」の創生期の姿を今に伝えている。

別海町歴史文化遺産



にしべつじんじゃし
西別神社々誌

(有形文化財)

昭和 9 (1934) 年 10 月の西別神社竣工時に奉納された、一枚板に墨で書かれた神社誌。当時の西別市街にあった主要な公共機関や寺・商店などの名称が記された貴重な文書資料。



ざいにちべいぐんていさつばくげきき
在日米軍偵察爆撃機RB29

プロペラブレード

(有形文化財)

昭和 29(1954)年に根室沖でソ連軍に攻撃されて上春別の民家に墜落した機体の一部。現在は別海消防団第 5 分団上春別詰所の敷地内にある。



にしべついなりじんじゃほんでん
西別稲荷神社本殿

(有形文化財)

明治 29(1896)年 4 月に走古丹の藤野漁場に創建され、明治 44(1911)年に昭和地区へ移された、歴史のある神社。昭和 15(1940)年に現在の西別原野 18 線に再移設された。



にしべついなりじんじゃぎゅうひだいこ
西別稲荷神社牛皮太鼓

(有形文化財)

大正 14 (1925) 年に現在の昭和地区にある西別稲荷神社に寄進されたもので、昭和 55(1980)年頃まで神社祭で使用。



しょうわしょうがっこうあと
昭和小学校跡

(記念物)

大正 5 (1930) 年から、昭和 44(1969)年まで昭和小学校(昭和 6 年までは「西別尋常小学校」)が置かれていた場所。



きゅうべつかいむらそんえいかんいきどうふうれんせん
旧別海村村営簡易軌道風連線

かみふうれんていりゅうじよきかんこあぶらこ
上風連停留所機関庫・油庫

(有形文化財)

村営軌道風連線の終点である上風連停留所に設置された機関庫と油庫。現在は上風連連合町内会の倉庫として使用。



きゅうこくてつしべつせんとかたんかわ
旧国鉄標津線床丹3の川

てつきょうべいぐんくうしゅうあと
鉄橋米軍空襲跡

(有形文化財)

昭和 20(1945)年に米軍戦闘機が国鉄西別駅ー春別駅間を走行していた機関車を機銃掃射した際、鉄橋に残った銃弾痕。



だいいちじいのうただたかそくりょうたい
第一次伊能忠敬測量隊

さいとうたんそくりょうち
最東端測量の地

(記念物)

寛政 12(1800)年の第一次測量時、江戸から 3 か月ほどかけてニシベツ(現在の別海西別河口付近)に到着し、測量した。



べつかいおんど
別海音頭

(無形文化財)

別海村開村 88 周年を記念して作られたもの。昭和 41(1966)年 11 月 27 日に記念式典で初披露された。現在は別海まつりの山車巡行時などの機会に披露される。

別海町歴史文化遺産



きゅうこくてつしべつせんかみしゅんべつえきあと
旧国鉄標津線上春別駅跡
(記念物)

昭和 38(1963)年に標津線の無人駅として設置。鉄筋コンクリートと古レールで作られた簡易ホームが一部現存。



ふうれんこ こおりしたま あみりょう
風蓮湖の氷下待ち網漁
(無形民俗文化財)

冬の期間、結氷する風蓮湖で行われる伝統的漁法。明治中期に始まり、氷の下に小型の定置網を仕掛けてコマイなどを獲る特異な技術。



きゅうりくぐん け ね べつだいichiひこうじょう
旧陸軍計根別第一飛行場
1号有蓋掩体
(有形文化財)

昭和 17～18(1942～43)年頃に設置。掩体とは、敵の攻撃から自軍の戦闘機を守るための軍事施設のこと。

日本遺産『『鮭の聖地』の物語』の構成文化財



のつけはんとう
野付半島

(北海道遺産)

根室海峡の強い沿岸流によって運ばれた砂礫が堆積して形成された日本最大の砂嘴。国後島への渡海拠点、日本列島の東門として交流窓口となった。



のつけつうこうやあといせき
野付通行屋跡遺跡

(北方領土遺産)

江戸時代、国後島への渡海拠点として幕府が野付に整備した休泊施設。幻のまち“キラク伝説”のモデルといわれる。



さけ ほ ふうけい
鮭とばを干す風景

アイヌの時代にも干鮭「アタツ」としてつくられた昔ながらの鮭保存法。現在も漁業者の家庭を中心に受け継がれる。初冬の風物詩。



やまづ せいほう
山漬けの製法

大量の鮭が採れる環境と北前船で運ばれた塩が生んだ鮭の熟成塩蔵法。西別川で採れた鮭は「献上鮭」として有名だった。



さけ い ず し ぶんか
鮭飯寿司の文化

江戸時代に始まる山漬け製法と、明治時代に北陸からの移住者が伝えた「なれ寿司」文化とが融合して生まれた食文化。



根室海 峡沿岸の鮭・鱒遡上河川
根室海峡沿岸の河川は、ほとんどがアイヌ語に由来する名を持つ。鮭はアイヌ語でカムイ・チェプ(神の魚)と呼ばれ、「神からの贈り物」の意味とされる

日本遺産「『鮭の聖地』の物語」の構成文化財



のつけわん うたせあみりょう
野付湾の打瀬網 漁

(北海道遺産)

水深が浅く、海底にアマモが群生する野付湾では、動力船が使用できないため、昔ながらの帆船でホッカイシマエビ漁が行われる。



しべつせんかんれんしさんぐん
標津線関連資産群

きゅうこくてつべつかいえき あつとこえきかんせんろあと
旧国鉄別海駅～厚床駅間線路跡
根釧台地の内陸開拓を大きく進展させ、酪農景観の誕生を強力に後押しした開拓路線標津線の歴史を物語る内陸交通遺産。



しべつせんかんれんしさんぐん
標津線関連資産群

きゅうこくてつこうしんえき
旧国鉄光進駅
別海町泉川に設置されていた、標津線の駅。かなり傷んではいるが、ホームは現存。駅名標を再整備するなど活用が図られている。



しべつせんかんれんしさんぐん
標津線関連資産群

きゅうこくてつひらいとえき
旧国鉄平糸駅

別海町別海に設置されていた、標津線の駅。かなり傷んではいるが、ホームは現存。駅名標を再整備するなど活用が図られている。



こんせん
根釧パイロットファーム

かんれんぶんかざいぐん
関連文化財群

昭和 30 年代以降、大規模な近代酪農村建設を目指した国家プロジェクト。豊原地区を中心に進められ、事業にまつわる建造物、農機具群が残る。



こんせんだいち らくのうけんぞうぶつぐん
根釧台地の酪農建造物群

腰折れのガンプル屋根を持つ牛舎は酪農地帯を象徴する建造物の一つ。タワー型サイロは現在、ほぼ使用されていないが、牧場のランドマーク的存在となっている。



こんせんだいち こうしじょうぼうふうりん
根釧台地の格子状防風林

(北海道遺産)

明治 30(1897)年、根釧台地に設定された大規模な殖民区画の名残。防風効果だけでなく、野生動物のすみかや移動の通路としての機能も果たす。

日本遺産「鮭の聖地」の詳しい情報は、以下のQRコードから、日本遺産のポータルサイトにアクセスして調べることができます。

